

5. 招待講演・シンポジウム

(学術集会・大会・公的な研修会のみ記載, 一般・民間企業主催は除く)

1. 森岡 周
(講演) Clinical approach using motion illusions for embodiment and pain relief
The 2nd TKJ Neurorehabilitation Congress (第2回日韓台ニューロリハビリテーション学会) . 2022年4月@WEB
慢性疼痛のメカニズムについて解説し, 運動錯覚を用いた治療に関して身体性の再建・変容の観点から説明した.
2. 森岡 周
(講演) 姿勢・歩行制御の神経メカニズム
公益社団法人徳島県理学療法士会令和4年度特別研修会. 2022年6月@WEB
姿勢定位, 姿勢バランス, 歩行制御に関する神経メカニズムについて解説し, いくつかの介入手法を紹介した.
3. 森岡 周
(教育講演) 慢性疼痛に対する神経リハビリテーション
第26回日本ペインリハビリテーション学会学術大会リフレッシュャーコース, 2022年6月@神戸
慢性疼痛, 特に神経障害性疼痛, 痛覚変調性疼痛に対する神経リハビリテーションの適応と限界について解説した.
4. 大住倫弘
(シンポジウム) 「疼痛治療 up to date」運動療法最前線
第26回日本ペインリハビリテーション学会学術大会. 2022年6月@神戸
運動療法の現実的な最前線をディスカッションして, Interprofessional work の中でリハビリテーションセラピストがやるべきことを議論した.

5. 森岡 周

(招待講演)

脳とこころから考えるペインリハビリテーション-慢性疼痛を中心に-
第 29 回日本赤十字リハビリテーション協会研修会. 2022 年 6 月@WEB
疼痛後の脳活動の変容ならびに心理的な変化について解説するとともに, それら特異
的病態に対するリハビリテーションについて解説した.

6. 信迫悟志

(シンポジウム) 発達性協調運動障害に対する感覚と運動の発達支援

第 22 回日本赤ちゃん学会学術集会. 2022 年 6 月@栃木

発達性協調運動障害を有する児における様々な特性 (内部モデル障害, ミラーニューロ
ンシステム障害, 視覚依存) とそれらに対するエビデンスベースドハビリテーションに
ついて解説した.

7. 森岡 周

(講演) 高次脳機能の神経科学とニューロリハビリテーション

第 6 回門真市理学療法士会 オンライン研修会. 2022 年 7 月@WEB

半側空間無視, 身体失認に関する病態メカニズムおよび関連する神経ネットワークを
解説し, 介入方法を紹介した.

8. 尾川達也

(講演) 生活期に向けた目標設定とアウトカム評価の活用

(一社) 佐賀県理学療法士会. 2022 年 7 月@WEB

生活期における目標設定方法や治療の意思決定方法について, 具体的な事例を交えて
説明した.

9. 大住倫弘

(シンポジウム) リハビリテーションの観点からみる痛みの知覚

日本心理学会第 86 回大会. 2022 年 9 月@WEB

痛みという経験が多感覚によって影響を受けることを紹介し, そこから視覚をつかつ
たりハビリテーションについて議論した.

10. 岡田洋平

(シンポジウム) 基礎研究の臨床への還元ーパーキンソン病への理学療法ー
第 27 回基礎理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月@大阪

「理学療法の効果の科学的検証-臨床で求められるエビデンス-」というタイトルでパーキンソン病患者に対する長期理学療法の有効性に関するエビデンス, 個別の運動症状に対する理学療法の有効性について解説し議論した.

11. 岡田洋平

(シンポジウム) パーキンソン病の多職種連携チームにおける理学療法士の役割
PD ジョイントミーティング. 2022 年 9 月@佐賀

パーキンソン病の理学療法がどのような症状を改善するかについての現状のエビデンスを解説し, 多職種連携チームにおける役割についても解説した.

12. 大住倫弘

(シンポジウム) 脳研究を運動器の「痛み」に対する理学療法へ応用するには
第 10 回日本運動器理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月@WEB

痛みの脳研究について基礎および臨床研究を紹介し, それを題材に理学療法介入のエッセンスを議論した.

13. 森岡 周

(大会長講演) 我々はどこから来たのか, どうあるべきなのか
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月@大阪

神経理学療法の過去, 現在, 未来について解説し, あるべき姿を羅針盤的に示し, 展望を述べた.

14. 信迫悟志

(教育講演) 高次脳機能を可能にする神経メカニズム

第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月@大阪

高次脳機能を可能にする神経ネットワークの構造と機能, およびその障害による高次脳機能障害について概説した.

15. 植田耕造

(教育講演) 姿勢バランスの評価の種類と特徴

第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月@大阪

Berg balance scale や Mini-Evaluation Systems Test など臨床現場で使用する姿勢バランスの評価の種類と特徴, およびその評価結果の解釈について解説した.

16. 岡田洋平

(教育講演) 歩行を実現する神経メカニズム

第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月 @大阪

ヒトの二足歩行を実現する基本的な神経メカニズムについて概説した.

17. 大住倫弘

(シンポジウム) 無いはずの手に経験する痛みへ接近する

第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月 @大阪

急速に発展する技術の裏で置き去りにされつつある「幻肢を動かす」という当事者の経験を考え直す試みをして, 今後のリハビリテーション研究で必要なことを議論した.

18. 宮脇 裕

(シンポジウム) “私が運動を制御している”と感じられることの意義とは?

第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月 @大阪

脳卒中後運動障害を有する患者の運動主体感と, その変容による臨床的な影響について研究成果を紹介し, それらの成果に基づき, 患者に運動主体感を与える意義と方法について議論した.

19. 大住倫弘

(シンポジウム) 脳卒中後疼痛における臨床評価の最適化とリハビリテーションの検討

第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月 @大阪

脳卒中後疼痛に必要なリハビリテーション評価を網羅的に解説し, 多忙なリハビリテーション現場で実施可能かつ正確に病態を把握できる手続きを提案した.

20. 井川祐樹

(シンポジウム) 脳卒中後疼痛の表現型における病態分析—異常感覚と損傷領域の特徴—

第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月 @大阪

中枢性脳卒中後疼痛における病態を把握するため, ベッドサイド QST を用いて感覚特性を分析. さらに感覚特性によって抽出される脳画像病変を明らかにした.

21. 藤井慎太郎

(シンポジウム) 従来の評価手法・データ分析プロセス再考による障害の特徴づけ —重心動揺計測を事例として—

第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月@大阪

神経理学療法に携わる理学療法士として、どのような観点で評価・分析を実施することで臨床還元の可能性があるのかについて、重心動揺計測データを例として提案した。

22. 岡田 洋平

(シンポジウム) パーキンソン病診療の近未来へのロードマップ

第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月@大阪

近未来に向けてパーキンソン病患者にとってより望ましい理学療法に発展していくためにどのようなことが必要かについて、Patient centeredness, Evidence, Outcome, Intervention, Mechanism の観点から解説し、議論した。

23. 森岡 周

(講演) リハビリテーションを再考する-エビデンスとナラティブの創発のために-

第 20 回日本神経理学療法学会学術大会ポストコンGRESS. 2022 年 10 月@WEB

自己の復権を目指すリハビリテーションのあり方について、身体性の哲学・科学およびリハビリテーション科学の視点から解説した。

24. 浦上英之

(シンポジウム) リハビリテーションと転倒予防

パーキンソン病の歩行時の動的安定性と転倒予防について解説した。

日本転倒予防学会第 9 回学術集会. 2022 年 10 月@奈良

パーキンソン病の歩行時の動的安定性と転倒予防について解説した。

25. 植田耕造

(シンポジウム) 前庭 × 姿勢制御

第 1 回日本前庭理学療法研究会学術集会. 2022 年 10 月@奈良

姿勢制御に関係する前庭機能を、主に前庭の上行路の評価とされる自覚的視性垂直位に関して lateropulsion との関連性などから解説した。

26. 岡田洋平

第 26 回日本神経理学療法学会サテライトカンファレンス東京

パーキンソン病の姿勢・歩行障害～病期に基づいた病態把握と理学療法の未来展望 2022 年 10 月@東京

「パーキンソン病の病期と歩行障害の特徴」というタイトルで、疾患の経過に伴う歩行障害の変化、歩行障害の神経メカニズム、多様な歩行障害の捉え方について解説した。

27. 森岡 周

(特別講演) 学際的研究から考える脳卒中理学療法

第 26 回栃木県理学療法士会学術大会. 2022 年 11 月@WEB

神経科学, 運動学, 心理学, 哲学などを融合しつつ, 学際的視野にたつて脳卒中理学療法について解説した。

28. 松尾 篤

(教育講演) プロフェッショナルリズムの壁 ～共感する心とコミュニケーション～

第 32 回京都府理学療法士学会. 2022 年 11 月@京都

プロフェッショナルリズムについて, 東洋古典と関連する医学研究を概観しながら, 共感とコミュニケーションの視点から講演した。

29. 岡田洋平

(講演) パーキンソン病トータルマネジメント研究会・運動障害とリハビリテーション. 2022 年 12 月@WEB

「多角的視点から考えるすくみ足に対する理学療法」というタイトルで, パーキンソン病のすくみ足に対する理学療法介入のエビデンスと介入コンセプト, 具体的な介入戦略について解説した。

30. 信迫悟志

(講演) 発達性協調運動障害の病態理解とニューロリハビリテーション

熊本県理学療法士協会第 7 回小児理学療法講習会 (基本編). 2022 年 11 月@WEB

発達性協調運動障害の病態生理や特徴, ハビリテーションや支援方法について解説した。

31. 森岡 周

(特別講演) 臨床と研究は同居している

第36回大阪府作業療法学会. 2022年12月@大阪

臨床家が行うべき振り返り研究について説明し, EBP を実践するためにクリアすべき障壁について解説した.

32. 大住倫弘

(シンポジウム) 感覚情報と自己の存在 –幻肢–

第7回日本理学療法哲学・倫理学会フォーラム. 2022年12月@WEB

“幻肢”という経験が具体的にどのようなものなのかを共有するとともに, それが「脳の中の手」ではなく, 「目には見えない手」であることを議論した.

33. 大住倫弘

(シンポジウム) Virtual Reality for Phantom Limb Pain

Oxford Workshop Virtual Reality for Pain. 2022年12月@WEB

幻肢と幻肢痛について解説するとともに, そのリハビリテーションの1つであるミラーセラピーを応用したVRリハビリテーションを紹介した.

34. 森岡 周

(講演) 痛みとモーターコントロール

中部 Neuropathic Pain Symposium. 2022年12月@名古屋

神経障害性疼痛に出現する痛みの特徴とモーターコントロールの変調について解説した.

35. 森岡 周

(講演) 生物コミュニケーション -学際的な視点から-

徳島県言語聴覚士会研修会. 2022年12月@WEB

リハビリテーション医療におけるコミュニケーションの重要性について解説するとともに, 非言語コミュニケーションを構成する因子, 促進要因について述べた.

36. 古賀優之

(教育講演) 生物心理社会モデルに基づいた中枢性疼痛の評価

第27回日本神経理学療法学会サテライトカンファレンス.

2023年2月@奈良

中枢性疼痛の概要と痛みの病態, 要因に応じた臨床評価手法について解説した.

37. 尾川達也

(シンポジウム) 患者の価値観を踏まえた物理療法の意思決定に向けて
日本物理療法合同学会大会. 2023年2月@東京

物理療法の使用に関する意思決定を対象者とどのように進めるかについて, Shared
Decision Making を中心に解説した.

38. 森岡 周

(教育講演) 学際的研究から考える神経リハビリテーション
回復期リハビリテーション病棟協会 第41回研究大会 in 岡山
2023年2月. @倉敷

脳卒中後身体障害に対するリハビリテーションの方向性について学際的研究に基づき
解説した.

39. 森岡 周

(講演) アイデンティティとリハビリテーション -私らしさの復権とは-
一般財団法人 訪問リハビリテーション振興財団 研修会.
2023年2月@WEB

アイデンティティの形成あるいは崩壊プロセスについて述べ, 主体性を引き出す要
因について語り, リハビリテーションのあり方について述べた.

40. 森岡 周

(総括講演) 未来への舵取
日本神経理学療法学会 SIGs 第5回参加型フォーラム. 2023年3月@東京
神経理学療法の今後のロードマップを示し, どのようにタスクフォースを設定するか,
ビジョンを述べた.